

# 70年の平和の努力は大事

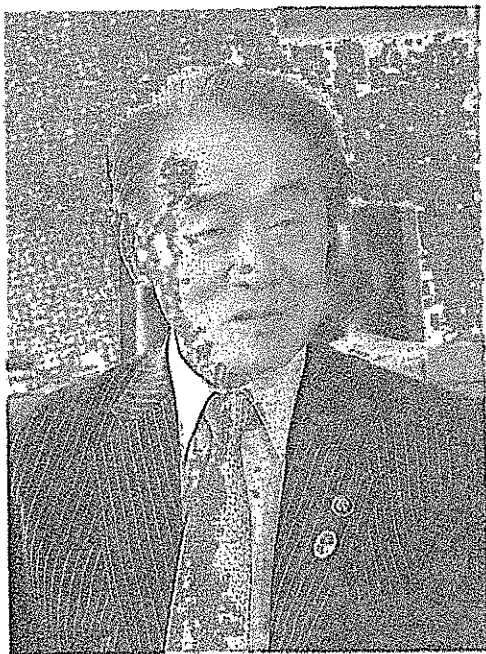
## 「戦争法案」

### 今言わなければ

私は、北日本新聞の安保法案の首長アンケート(7月4日付)で「反対」と答えました。何か意図があつて強調したいというつもりではなく、国民の半分以上が反対だと言っているように、平均的な考えをのべただけです。

市民と共通の心  
私は自民党を離党し、

富山・滑川市長 上田昌孝さん



どの党派にも属しておらず、しがらみはありません。「オール市民」の立場です。

た。「市長、よく自分の意思を明確に示してくれました。よかったです」と言う

私の態度表明に市民は、悪い反応じゃなく、いい印象で意見を言ってくれています。

法案に賛成する首長さ

うえだ・まさたか  
1943年生まれ。日本大学経済学部卒業。滑川市議会議員(5期)、滑川市議会議長を歴任。2010年滑川市長に当選、現在2期目。

場で市民と共通の心で考えたかと思っているんです。私が北日本新聞で安保法案に反対の立場を表明したことに、多くの市民から反響がありました。悪い反応じゃなく、いい印象で意見を言ってくれています。

人も100%賛成でもないとはいえません。日本や国際情勢を見て、現実的な心配をされているんだと思います。それでもね、日本人は平和でいくんだという意思表示は続けていった方が絶対いいと思います。続けていかないとダメです。

#### 自衛中立の見本

日本は70年間、戦争をしないできました。国際的には、海洋で民間船が襲われるというところはあります。こうした問題への対応も、日本はこれまできちんとやってきていると思います。スイスが自衛によって中立を守り守っていける見本を見せてくれているように、日本も国際的には平

和國家の見本であったはず。70年間続けてきた平和な日本への国民の努力を継続しても、何一つおかしなことはないでしょう。戦争をしないという国民の感性こそが、いまとても大事だと思いますよ。国会で議論されることはいいですが、ここまで歩み続けてきた平和の努力を変えてしまつたら、戻れなくなる恐れがあると思います。

いま心配しているのは、年々戦争体験者が亡くなつて、戦前の日本の戦争への意識がだんだん薄らいできていることです。戦争体験は語りつがれていくべきだろうと、国民のみなさんは思っていると、思っています。

聞き手・写真 齋藤浩元

2/1 斎藤